原田牧場 Note

page 21

　10月の終わり、短い秋が通り過ぎようと、気温がグッと下がった日
お風呂の給湯器が壊れました。18年も使ったしそろそろ寿命がきちゃうかな
と思っていた矢先でした。給湯器をまるまる入れ替えることになり、工事が
来るまで時間がかかりそう…仕事柄、埃だらけで帰ってきたらすぐ洗い流し
たく、ぬるいけどシャワーだけは使えたので我慢して使っていたものの、
一向に修理は来ないぞ？となって車で10分の温泉に通うことになりました。
夜はもう一桁気温。お風呂に通うだけでも脳天まで冷えてイヤでしたが、
温まらないと体調を悪くしそうだし渋々行きました。銭湯のような気軽な
雰囲気と価格の掛け流しモール温泉。田舎に住んでる醍醐味を感じつつ入っ
てみたらすべすべのお湯が素晴らしく、露天風呂もサウナもありポカポカに
温まりました。先に入っていた人が出ていかれて、私一人貸切だった日。
寒い外仕事も温泉が待ってると思うと頑張れるなあ、今日も無事終わった～
と満たされまくって脱衣所へ上がると、ドライヤーをしているご婦人に
「ここって打たせ湯ありませんでした？」と話しかけられ「サウナのあった
所が昔そうだったかもです」と答えたのをきっかけに身支度しながらしばら
く話をしました。ご婦人は根室まで帰る途中に疲れを癒そうと寄った温泉が
定休日でちょっと道を逸れたこの温泉までたどりついたとのこと。「本当に
疲れがひどくて」とその理由をポツポツと話されて。「夫をね、5年自宅で介
護してまして。最近施設に入ったんだけど。自分が食べることも忘れて、夫
に食べさせなきゃと一所懸命にやってたものだから、自分はすっかりやつれ
てね、胃も小さくなって食べられなくてね、すっかり老け込んで髪も薄く
なってるでしょ。８２歳なんだけど…」「えっ！82歳、全然見えませんよ！
いいお湯で生き返りましたよね！

私は酪農家なんですけど、仕事が終わったらすぐお風呂に入りたいのに
壊れてしまって久しぶりに来たんです、ここ。昔と雰囲気変わってて、
来て良かったと感動してたところです。湯上がりの効果か全く疲れて見え
ないです、ツヤツヤですよ〜」と事実を伝えるとちょっと笑顔になってく
れました。「まだ介護が終わったわけじゃないけど、少し楽になった分、
自分を立て直して元気でいないと、と思ってるの」
私の親世代にあたるご婦人の老老介護の心境や不安が伝わってきました。
「この温泉は効果ありそうですよ、私も大阪から来て20年近くたって
今52歳で一番の働き盛りですが、体力はピークすぎてるので、休みなく働く
ってやっぱりこたえますよ、でもなんかこの温泉、効いてます、元気でてま
す！」と言うと「私もそう思う！」と同意してくださって。それぞれの世代
の大変さを分かち合ってる気持ちになりました。どんどん身支度が進んで
ご婦人の服が不思議と田舎っぽさがなく素敵に感じて、そう褒めると、
神戸にいる妹が着道楽で定期的に送ってくるおさがりを着てるとのこと。
ノーカラーの羽織にヒョウ柄ドットのマフラーがよくお似合いでした。
私といえば上下ジャージで褒める所はひとつもないのですが、52歳を申告し
た時には「82歳！見えない！」のお返しに「見えない！」と言って欲しかっ
た（笑）うそうそ、お世辞を言わないご婦人が本当に好ましかったです。
偶然居合わせて、たまたま話をして、相手は何も知らない人だったので、
すっぴんの飾らない自分がふと今の心境を吐露できて、日々の辛い大変な
ことも温泉のポカポカが優しく包み込んでくれたから、さあ、また航海へ
出発しようか。と気持ちが上がった夜でした。
　確かに田舎は周りみんなが知り合いだから、何か言うと心配されすぎたり
すぐ噂になったり。知らない人の方が話しやすい場合がありますね。
最近は物騒なことも多く、他人に声をかけるのも、かけられるのも一瞬
身構えます。そんな中、久しぶりの嬉しい一期一会でした。「楽しかったで
すねー」と言いながらロビーへ出ていくと、夫とご婦人の息子さんが、
遅かったね、何かあったかな？と心配顔でいましたが、ハツラツと元気な
足取りで出てきたご婦人を見て、驚いた顔をしていました。
これはまさしく湯治ですね。

「お元気で、またここでお会いしましょう！」と私が言うと
「家のお風呂が直ったらもう来ないでしょ？」と最後まで社交辞令を
言わないご婦人には笑ってしまいました。私は、会いたい人にはまた会える
を信じていて、社交辞令ではなかったのですが。
それぞれに続く航海。この癒しの船着場でまたお会いできますように。

筆者　　原田　希
1973年　大阪府吹田市生まれ
2006年　酪農家との結婚を機に北海道標茶町へ
2017年　北海道農業士に認定
　　北海道指導農業士の夫とともに
　　新規就農者の支援や女性農業者向けの勉強会のお世話係を担当